



<今月のご案内>

森へ行こう

歌オブナ林*花ごよみ

白、黄色、紫、と花々によって森が彩られる季節。歌オブナ林の散策路沿いで開花調査をしながら、終点まで歩きます。花を見ながら散策してみたい!という方も大歓迎。午前のみ参加もOKです。

【日 程】5月17日(土) 9:30~14:30

【集 合】歌オブナ林駐車公園(9:30)

【持ち物】野外で活動できる服装、長靴、飲み物、雨具、昼食、敷きもの

【申込み】不要

【その他】雨天の場合中止



オオバナノエンレイソウ

くろまつないの
自然いちおし情報

松浦武四郎の足跡に思いを馳せて ~ブナの小道と黒松内山道を歩く~

北海道の名付け親でもある松浦武四郎が、安政4年(1857年)に歩いたと言われる「黒松内山道」。その跡が、ブナセンター近くの散策路である「ブナの小道」に一部重なっていると言われてきましたが、昨年7月、町民有志等からなる「タケシロードツアーG」の文献調査等によって特定されました。

一昨年ササが一斉に枯れた事もあり、両脇が側溝のように掘り下げられ、真ん中が平らになっている地形がよく分かります。ブナの小道では山道跡の一部を実際に歩くこともできます。

また、「東蝦夷日誌」(1857年)の中で松浦武四郎が書き記した「ブナノキタイ」という地名は、ブナの小道の入り口付近を指しているのではという説もあり、現在調査が進められています。

当時は大変な悪路だったといわれる黒松内山道。山道周辺のルートでは一部ぬかるむ箇所がありますので、長靴などを装備の上、ブナの若葉に包まれながらブナの小道散歩を楽しんでみては。

ブナセンターは(月)(火)休館です 祝日は開館しています

黒松内版 森林療法体験会

おさんぽの会



歌オブナ林公園のコース(往復約3キロ)を、季節の自然を楽しみながらゆったりとウォーキングします。自然を五感で楽しみながら、心も体もリフレッシュしましょう! 昨年同様、5月から11月の間、月1回程度、開催します。(雨天中止・小雨決行)

【日 程】① 5月11日(日)

<今年度のおさんぽの会予定>

② 6月15日(日) ③ 7月13日(日)

④ 9月14日(日) ⑤ 10月12日(日)

⑥ 11月9日(日)

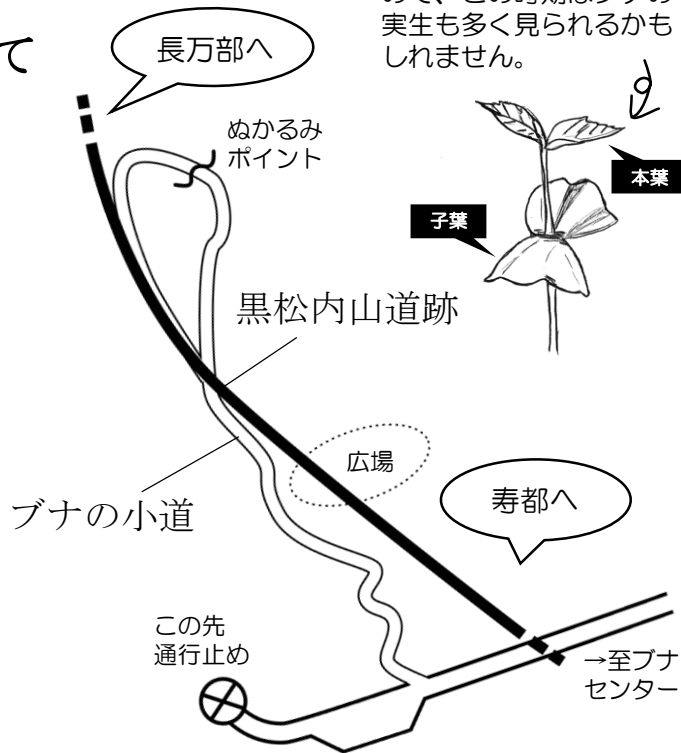
【時 間】10:00~12:00(目安です)

【集 合】黒松内温泉ふなの森 左側集合。

【持ち物】ウォーキングしやすい服装、靴、帽子、飲み物、虫よけ など

【申込み】不要

昨年大量にブナが実ったので、この時期はブナの実生も多く見られるかもしれませんが。



100 歌オブナ林は2028年に天然記念物指定100周年を迎えます



FacebookのQRコードはこちら

発行所: 黒松内町ブナセンター
〒048-0101 北海道寿都郡黒松内町字黒松内512-1
TEL 0136-72-4411 FAX 0136-72-4440
MAIL bunacent@host.or.jp HP https://bunacent.host.or.jp
FB https://www.facebook.com/kuromatsunai.bunacent

令和6年度 黒松内生物多様性保全奨励事業 成果発表会



会場の様子

黒松内町では、生物多様性の保全・活用に寄与する研究への助成をおこなっています。3月1日(土)の成果発表会では、令和6年度プナセンター賞・深澤遊さん(東北大学准教授)と、令和5年度プナセンター賞・前田唯眞さん(北海道大学博士後期課程)の発表がありました。開催は町民センターとオンライン配信で行い、町内外から40名近く参加者が集まりました。

深澤さん「枯れ木は多様な生き物の住み場所」

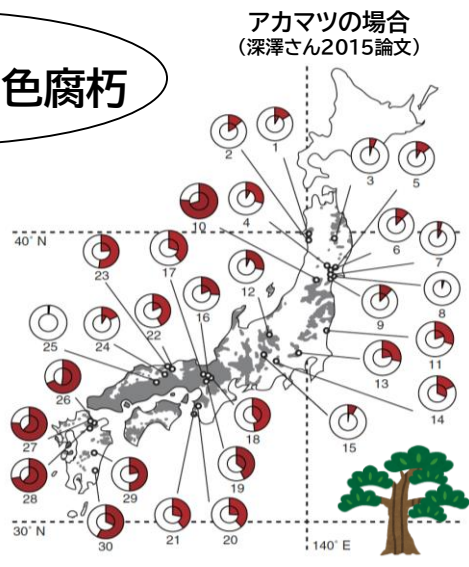
今年度は、歌オプナ林でプナ・ミズナラの枯れ木の木くずを採集。その木くずに含まれる「腐朽菌(枯れ木を食べて分解する菌類)」の種類を遺伝子解析によって調べていきます。これを全国のサンプルと比較し、気候と腐朽菌の関係や、樹種による腐朽菌の種類のちがいを明らかにします。

日本全国！ 白色腐朽 v.s. 褐色腐朽

アカマツは、北にいくほど白色腐朽が多い。…プナだったら？

南北で「腐朽のしかた」のちがいが分かれば、気温が上昇した未来のプナ林の姿が予測できる!? 研究の結果が楽しみです。

色は白色腐朽(白)と褐色腐朽(黒)、内側は心材、外側は辺材を表す。



アカマツの場合 (深澤さん2015論文)

腐朽菌による腐朽のしかたは2種類



白色腐朽菌により腐朽すると白くてフカフカになる

褐色腐朽菌により腐朽すると茶色のブロック状にくずれる

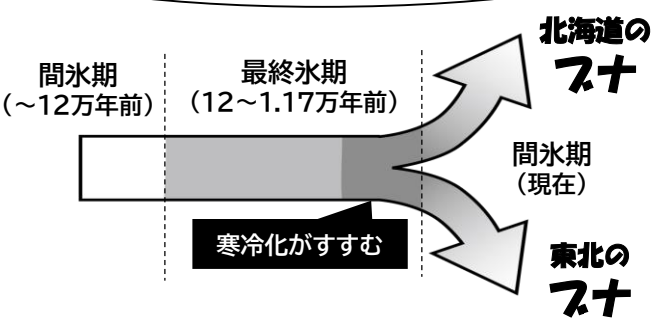
- 枯木を住み場所や食糧にする生き物
- トウヒ(植物) | ヤマウルシ(植物)
- オニクワガタ(昆虫) | マダラクワガタ(昆虫)
- ツノホコリ(粘菌)など | アミホコリ(粘菌)など

腐朽のしかたで、そこに生息する生き物が変わる。その生き物を食べる生き物も変わるので、枯木をとりまく生態系は腐朽菌の種類により大きく変わる。

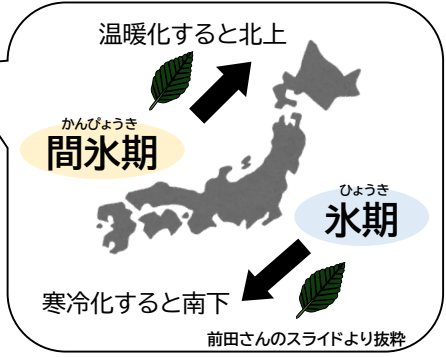
前田さん「北海道のプナの祖先は独自の進化を遂げた」

プナは、地球の気候に合わせて移動することで生き残ってきたと考えられています。プナの遺伝子解析を行った前田さんの研究により、北限のプナの歴史の一面が明らかになりました。

北海道のプナが辿ってきた道のり



…北海道のプナと東北のプナが「どこ」で分化したのが課題です。今後の研究に期待！



前田さんのスライドより抜粋

独自の進化とは？

北海道のプナは、東北のプナとは配列の異なる遺伝子があることが分かりました。その遺伝子は、プナが北海道の気候に適応するために、長い時間をかけて進化してきた結果だと考えられます。

前田さんは、最終氷期のなかでも寒冷化がすすんだ時期に、北海道のプナと東北のプナが分化したことを新たに突き止めました。

…由来の違うプナを持ち込むと、進化によって獲得した特徴が損なわれるかも。黒松内には黒松内のプナを植えることが大切。